

第22回バリアフリー推進ワークショップ

駅をデザインする —わかりやすい空間と案内表示—

2015.5.28

赤瀬 達三

1

今日のお話

1. 駅のデザイン事例
2. 国内外の駅デザイン比較
3. 大規模駅の改善方策

3

1. 駅のデザイン事例

- (1) 営団地下鉄のサインシステム計画
- (2) 仙台市地下鉄の空間構成計画
- (3) 横浜駅のコモンサイン整備

4

(1) 営団地下鉄の サインシステム計画

1972年～2003年

5



・改良前、1972年撮影、大手町駅

6



7



・改良前、1972年撮影、銀座駅

8



9

◎情報の分類

	方向指示情報	図解案内情報
乗車系情報	A	B
降車系情報	C	D

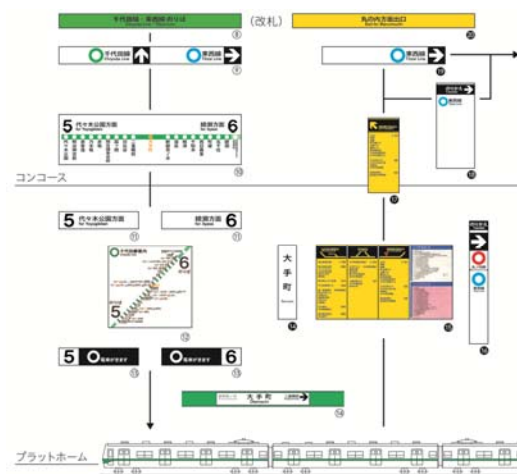
- ・乗車行動に必要な情報と、降車行動に必要な情報
- ・移動方向を示す情報と、行動の選択肢を示す情報

10

・サインシステム図



11

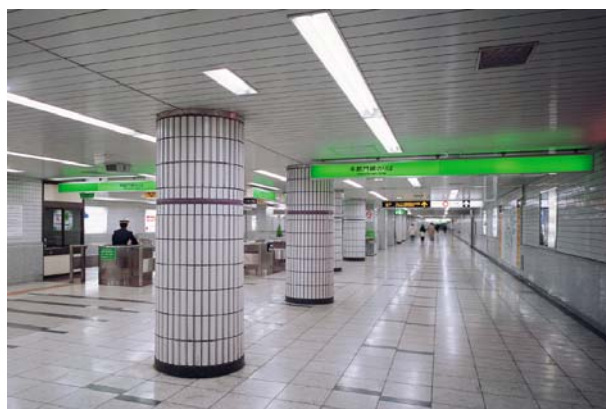


12



大手町駅1989(このころのシステムが最も完成度が高かった)

13



大手町駅1989

14



大手町駅1989

15



三越前駅1989

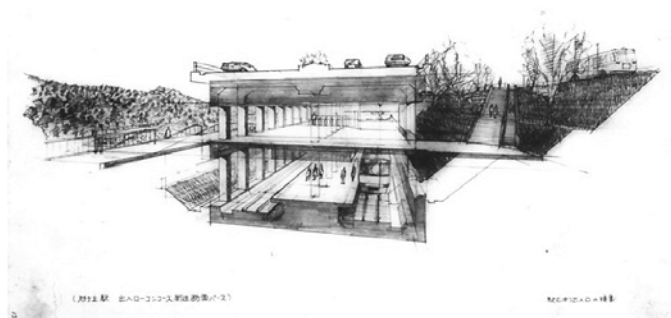
16

(2) 仙台市地下鉄の 空間構成計画

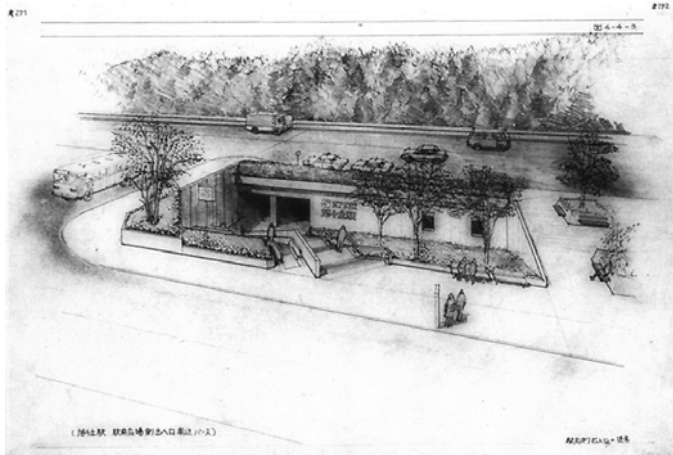
1981年～1987年

17

◎郊外駅の昇り庭の提案



18

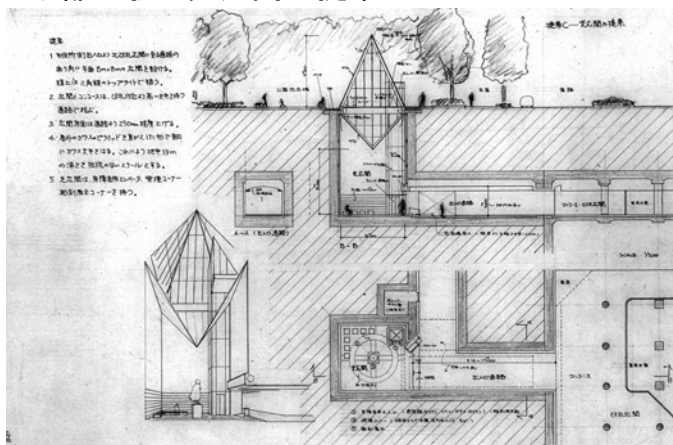


19

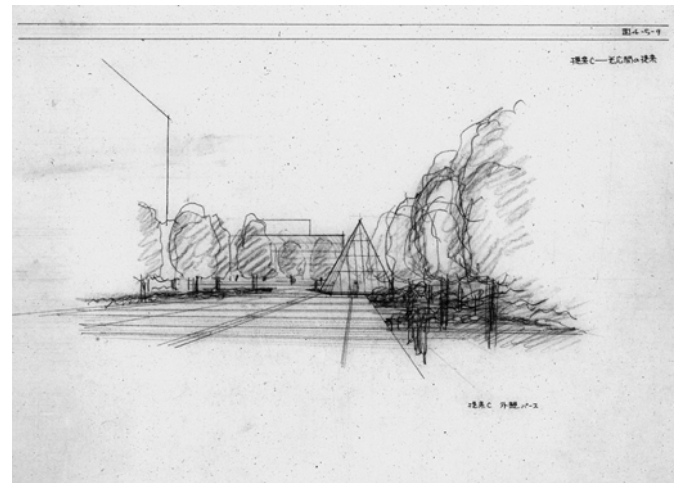


20

◎都心駅の光広間の提案



21



22

◎標準駅のデザイン提案



23



24

(3) 横浜駅のコモンサイン整備

1995年～2010年

25



・改良前、1995年撮影、横浜駅中央通路

26



27



・改良後、2008年撮影、横浜駅中央通路

28



29



・改良後、2006年撮影、横浜駅北通路

30

2. 国内外の駅デザイン比較

- (1) JR新宿駅とベルリン中央駅
- (2) 東京メトロ駅とワシントン地下鉄
- (3) 東急渋谷駅とミュンヘン地下鉄

31

(1) JR新宿駅とベルリン中央駅

32



・8本のホームが地平上に並ぶ構造

33



・上り階段付近にサインが集中、上の様子は見えない！

34



・現在の南口コンコースのホーム階段口

35



・1988年整備時の南口コンコース

36



・ベルリン中央駅のホーム上の階段付近

37



・出入り口を入ると、目前にSバーンの車両

38

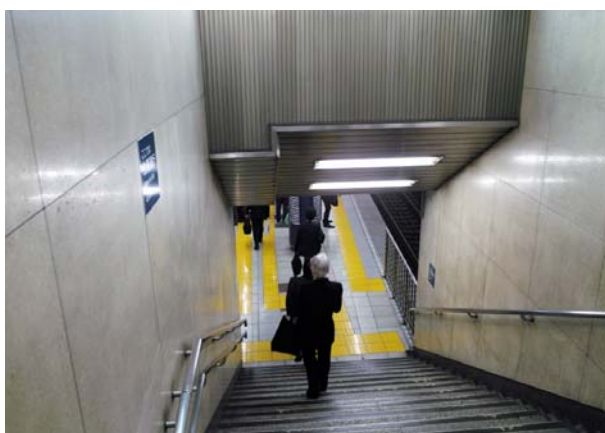


・出入り口から、上方も下方も望める

39

(2) 東京メトロ駅とワシントン地下鉄

40



・多くの駅のホーム階段は壁で覆われている

41



・電車を降りても、どこに階段があるかわからない

42



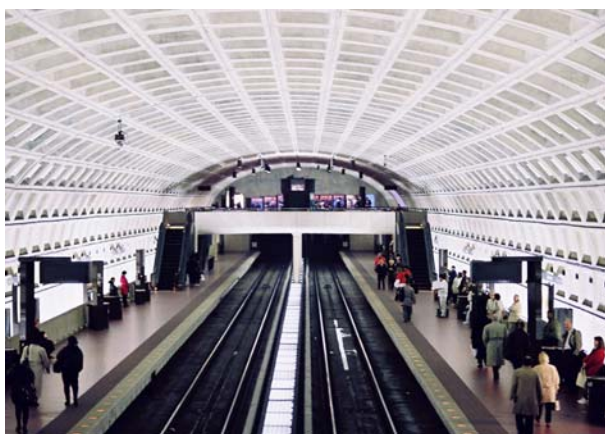
・民営化後の出口案内は、広告に依存することに

43



・ワシントンDC地下鉄、改札ホール

44



・改札ホールからホームを見渡すと、全部見える

45

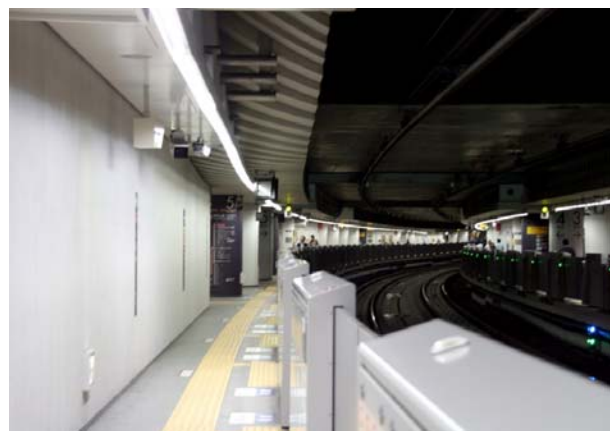


・電車を降りても、移動先がすぐにわかる

46

(3) 東急渋谷駅とミュンヘン地下鉄

47



・新しい地下ホーム、人が留まるスペースはほとんどない

48



・電車が着くとこのありさま！

49



・サインやベンチで空間も視界も塞がれている

50



・ミュンヘンの地下鉄では、ホーム上にサインとゴミ箱のみ

51



・階段部は、上下相互に見通せるようにつくられている

52



53



・通り名称が徹底されているから、案内も通り名で

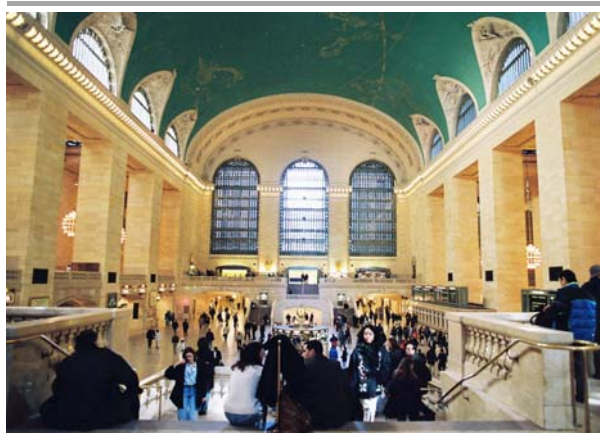
54

3. 大規模駅の改善方策 (新宿ターミナルを念頭に)

- (1) 主要駅が備えるべき整備水準
- (2) 空間自体のわかりやすさの重要性
- (3) わかりやすい案内表示の方策

55

(1) 主要駅が備えるべき整備水準



・先進的事例 —NYグランドセントラル駅

56

・当然、わが国の主要駅でも求められる



・整備主体がそう言うのではなく、人々からそう思われる

57

(2) 空間自体のわかりやすさの重要性

[わかった！の内訳]

[役割分担の原則]

- ① 状況(全体像)がわかる
- ② 筋道(順序)がわかる
- ③ 意味(ルール)がわかる



・「空間構成」と「案内表示」の両面から、対応が必要

58

① 見晴らしをつくと、状況がわかる



パリ/ シャルル・ド・ゴール空港第2TGV駅

59

② 見通しをつくと、筋道がわかる



ベルリン/ ベルリン中央駅

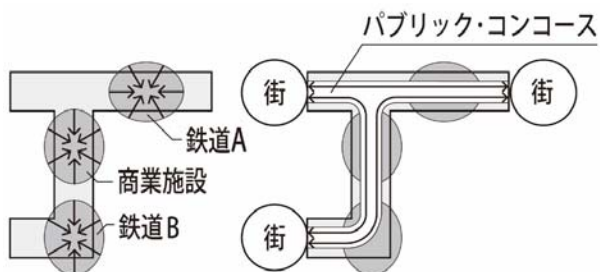
60

(3) わかりやすい案内表示の方策

①「部分から全体へ」、案内方針を転換する

[これまで]

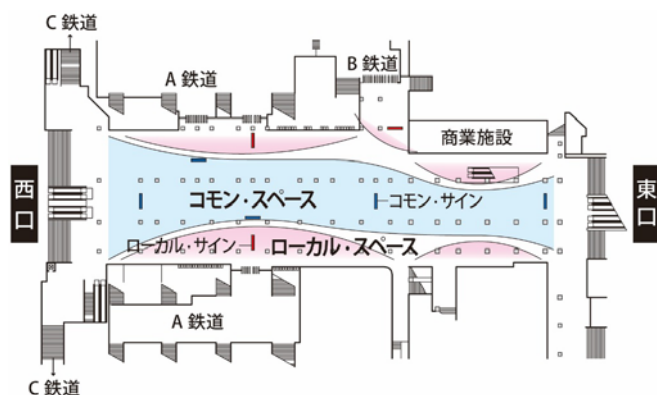
[これから]



- ・人々は管理区分を越えて移動する
- ・情報は空間に制約されない

61

参考：横浜駅コモンサイン計画のコンセプト



- ・コモンスペースのサインは、みんなで整備する

62

- ・結果、改札口前で、乗り換え・出口の方向がすぐにわかる



63

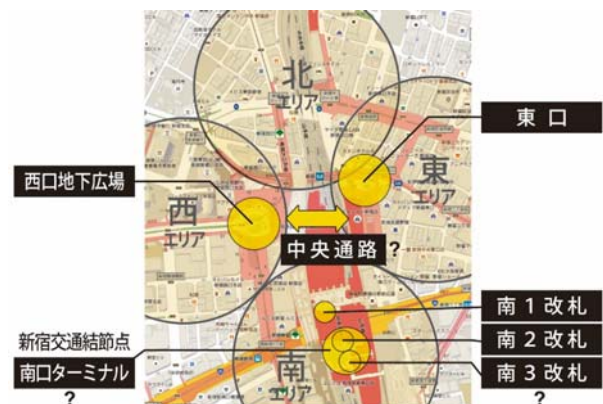
②できるだけシンプルに表現する



- ・字数・情報量を少なくし、シンボルは遠くから辿れるように

64

③基点と座標軸を示す名称を、再整理する



- ・駅の構造変化に伴い、シンプルで迷わないオリエンテーション・コードも、要再検討

65

④誰にでもわかる乗り換えシンボルを、工夫する

(ユニバーサル・コードの導入)

[これまで] この表記で、日・英・中・韓以外の言語圏の人に、わかる？



[これから] 万国共通の数字(既定の都市計画路線番号)ならわかる！



- ・都営新宿線と京王新線が、都市計画10号線として、相互直通運転していることまで、伝える

66